



ま す こ はる 新聞



新型コロナウイルス感染5類移行後の医療はどうなるのか？

衆済会増子記念病院
理事長・院長 両角國男

5月8日に新型コロナウイルス感染は季節性インフルエンザと同じ5類に変更されました。2020年初頭の日本で最初のコロナ感染発症から新型コロナウイルスは、アルファ株、デルタ株から現在のオミクロン株に変異してきました。3年前、コロナに感染したら死につながるとの不安を社会の大半が感じていました。しかし、コロナウイルスに対する新規開発RNAワクチンが従来では考えられない速度で登場しました。また、コロナウイルス治療薬開発も迅速で多くの薬剤が使用可能となりました。こうした状況の中、オミクロン株の感染力は強く感染者数は激増しましたが、重症例は激減しました。増子記念病院では、ご承知のように重症化しやすい透析患者さんを中心に積極的に入院加療を行ってきました。



令和4年度において、コロナ感染検査実施総数は4,456件、うち新規陽性者数は607名でした。万全な体制の感染治療エリアで180名の入院治療を行いました。通院隔離透析体制も充実させ実施しました。その結果、重症化例はほとんどなく、皆さん元気になって以前の生活に戻られました。コロナ感染禍では通常診療への支障が大きく多方面でご不便をおかけしたと思います。困難な状況をご理解いただき、協力いただいた患者さんとそのご家族に感謝いたします。また、診療に従事した増子記念病院やクリニック昂の全職員の献身的努力は医療従事者として当然のことといえ、素晴らしいレベルでした。本当に感謝しています。

皆さんにお願いがあります。5類になってもコロナウイルスは頑固に居座っています。気を緩めると感染拡大は急に出現します。多くの人が集まる場所では感染対策はまだ必要です。ご家族との生活や外出時などのマスクは不要です。しかし、風邪のような体調不良時にマスクは必要です。手洗いも重要です。現在も増子記念病院やクリニック昂では全職員はマスク着用しています。病院を利用される皆様にもマスク着用をお願いしています。自分自身を守る、ご家族を守る行動で日本の医療を維持し、緊急事態宣言のような社会規制が再導入されるようなことは二度とあってはいけません。一人一人が感染対策を継続してコロナウイルスを社会から消し去る日が来るようにしたいと思えます。

コロナ感染への万全な対策を継続しながら、増子記念病院では皆さんのために最善の医療を提供していきます。全国的に高い評価を受けている腎臓病領域全般とその関連領域を中心に、肝臓病や炎症性腸疾患などの専門病院としての診療内容をさらに充実させていきます。総合病院ではないけれど、高い診療レベルの医師団、優しく温かい医療スタッフに恵まれ、高度な医療機器の充実した増子記念病院です。「患者とその家族、職員とその家族の幸せのために」の理念に基づいた最高の医療を積極的に展開していきます。

令和5年度 新任医師の紹介

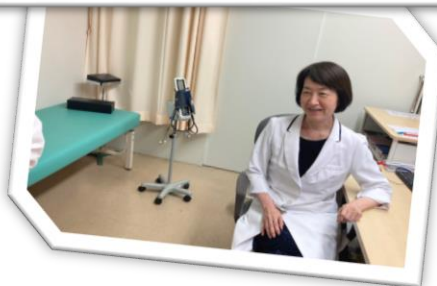
4月から増子記念病院に新しい医師が加わりました！

腎臓内科 武田朝美(たけだあさみ)先生、
腎臓内科 野老山茂寛(ところやましげひろ)先生

の2名を、それぞれご紹介します。



腎臓内科 武田朝美



4月より当院へ入職しました腎臓内科の武田朝美です。3月末までは34年間日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院に勤務しておりました。医学部卒業後はずっと両角理事長の背中を見て、腎臓内科医として精進してきました。これまで腎病理診断を軸に腎疾患に向き合ってきましたが、今後はよりいっそう腎臓病患者に近く寄り添う診療を実践していきたいと思います。よろしくお願いいたします。



腎臓内科 野老山茂寛



4月に入職しました野老山茂寛でございます。29歳で腎臓内科医になるために岐阜大学へ入学し、その目標通りに腎臓内科医として日々研鑽できる環境に身を置かせて頂くに至っております。不得手な部分もございますが、丁寧な診療を心がけておりますので、皆様のお力添えを何卒よろしくお願い申し上げます。

「ますこ・すばる新聞 令和5年初夏号」

発行元：増子記念病院 広報委員会（令和5年6月）

医療法人 衆済会 増子記念病院
〒453-8566
名古屋市中村区竹橋町35番28号
TEL (052) 451-1307 / FAX (052) 451-1324
公式HP：<https://www.syusaikai.com/>

増子クリニック 昂
〒453-0856
名古屋市中村区並木1丁目322番地
TEL (052) 412-8211 / FAX (052) 414-2962
公式HP：<http://www.hd-subaru.jp/>

フットケアという言葉を目にしたことはありますか？

フットケアとは『足病変の予防・早期発見を行い、足の健康を保つこと』を目的としたケア指します。当院では、血管外科医師、看護師、理学療法士で「フットケア委員会」を構成し、臨床検査技師、臨床工学技士、放射線技師など多職種と連携し活動を行っています。

「爪が厚くなりどうしていいかわからなかった」と、相談される方も多くいます。しびれや痛みなどの症状や巻爪や靴擦れ、胼胝（タコ）、鶏眼（魚の目）がないかスタッフが観察を行い、歩き方や履物のアドバイス、爪切りなど必要な処置を行います。また、高齢者や糖尿病・透析治療を行っている患者さんは足病変になりやすく、小さな傷が原因で足の切断に至ることもあります。定期的に足の観察や血流評価を行い、症状に応じて血管外科や皮膚科、整形外科へ紹介し、早期に治療ができるよう連携を図っています。

日常的に「歩く」ことは当たり前であり、元気なうちは「歩けなくなる」と考えることはあまりありません。日頃から自分の足に関心を持ち、気になることがあればいつでも気軽にご相談下さい。



左:胼胝(タコ)削りの様子 右:フットケア委員会メンバー
日本フットケア足病医学会 フットケア指導士3名所属しています！

「厚生労働省 くるみん認定」(2回目)を取得しました！

当院では、職員の仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の支援のため、様々な制度の整備や取り組みを行っています。

このたび、働き方改革の推進等、全病院を挙げての継続的な取り組みが評価され、2017年以来2回目の「厚生労働省 くるみん認定」を受けることができました。



※「厚生労働省 くるみん認定」について

次世代育成支援対策推進法に基づき、行動計画策定や、目標達成などの要件を満たした企業に対し、子育てサポート企業として厚生労働大臣が認定をします。認定企業には次世代認定マーク「くるみん」が与えられ、愛知県内では約180社がこの「くるみん認定」を受けています。

これからも、職員がより生き活きと働ける職場づくりを通して、「患者とその家族、職員とその家族の幸せのために」理念のもと、皆さんに信頼される医療機関として努めて参ります。